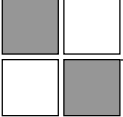


第3章

日進市の概況



第3章

日進市の概況

1. 日進市のまちづくり

(1) 本市の成り立ち

本市は、かつては純粋な農村地域でしたが、高度経済成長期(昭和 30・40 年代)の宅地開発に伴い住宅団地が続々と形成されたことにより人口が急激に増加し、都市としての成長が始まりました。また、昭和 40 年代以降の名古屋都市圏の拡大により、その傾向は一層強まりました。

しかし、こうした住宅団地開発の進展は、交通需要に十分対処できない道路路面の弱さを現わし、また、本市の中心地を形成することなく今日に至っています。

今後もしばらくは、土地区画整理事業を主体とした市街地開発が続き、様々な人が他の市町村から移り住むことになるわけですが、都市としての形を整えるためには道路の整備など、交通ネットワークの充実を図っていくとともに、市のシンボルとなるような『都市核』を形成していく必要があります。

また、市内には多くの大学が立地し、昭和 60 年代には「あいち学術研究開発ゾーン」の位置づけの中で、愛知池周辺地区が研究開発機能・研修機能を中心とした複合的な拠点地区として整備されました。こうした市内に分散立地する大学や研究開発機能と市民や行政が相互に連携・交流し合うとともに、『都市核』と住宅地や諸施設などを結ぶ交通ネットワークの形成を図る必要があります。

その一方で、本市に残る緑地などは、市民の貴重な自然環境として保全し、後世に残していく必要があります。

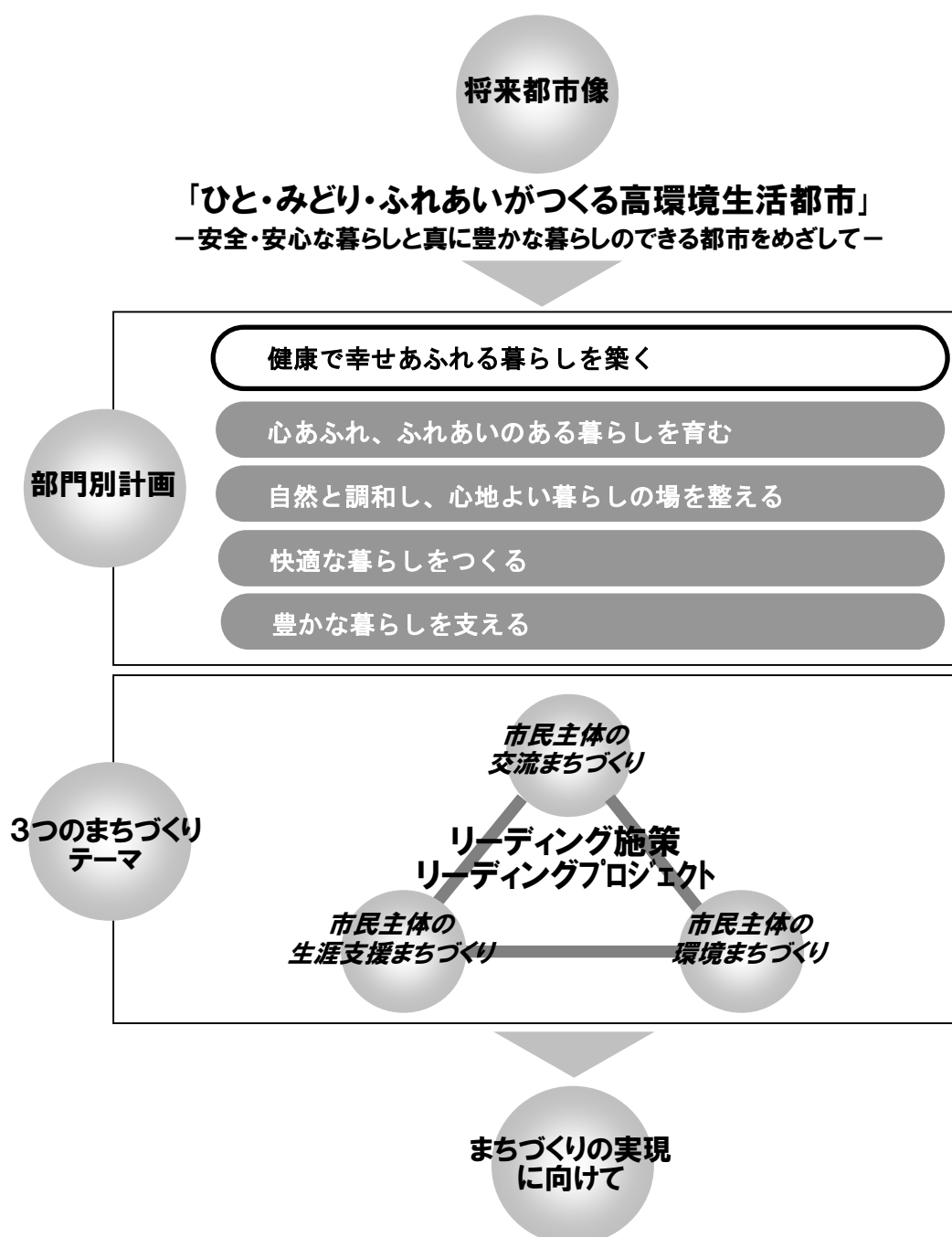
(第4次 日進市総合計画より抜粋)

(2) 本市がめざす将来都市像

1) 基本構想の組み立て

本市では、市民にとって真に住み心地が良く、豊かで生きがいに満ちた生活が楽しめる“まち”…そんな「高環境」の生活都市をめざしていきます。

そして、この将来都市像の実現に向け、「交流」、「生涯支援」、「環境」を重視した都市づくりを、市民と行政が力を合わせて推進していきます。



2) 部門別計画

健康で幸せあふれる暮らしを築く

市民が真に暮らしやすい都市とするためには、市民が健康で生きがいを持ち、安心して暮らすことのできるまちづくりが必要です。

そのために、市民一人ひとりが健康づくりを実践できるよう、保健・医療・福祉が連携した各種施策を推進していきます。

やすらぎのある暮らしー福祉ー

福祉を「家庭」から「社会」で支えあう環境づくりをめざします。

健康的な暮らしー保健・医療ー

すべての市民が、生涯を通じて健康な生活を営める体制の充実を図っていきます。

また、人口増加、高齢化により多様化・高度化する医療ニーズに対応するため、医療機能の充実を図っていきます。

3) まちづくりの実現に向けて

将来都市像の実現にあたっては、市民と行政が相互理解を深めながらお互いのパートナーシップ（協働）意識を高め、育んでいくことが必要です。そのためには、市民自身が積極的にまちづくりへ参加することが求められます。

また、より快適で住みよいまちづくりを実現するため、時代の要請に的確に対応できる行財政運営を図るとともに、行政自体の意識改革、体質改善に努めます。

さらに、施策や事業の実施にあたっては、行政努力はもとより、他の行政機関との連携を推進しながら効率的な運営を進めていきます。市民が真に暮らしやすい都市とするためには、市民が健康で生きがいを持ち、安心して暮らすことのできるまちづくりが必要です。

（第4次日進市総合計画ダイジェスト版より抜粋）

2. 日進市の現状

(1) 人口

1) 人口及び世帯数

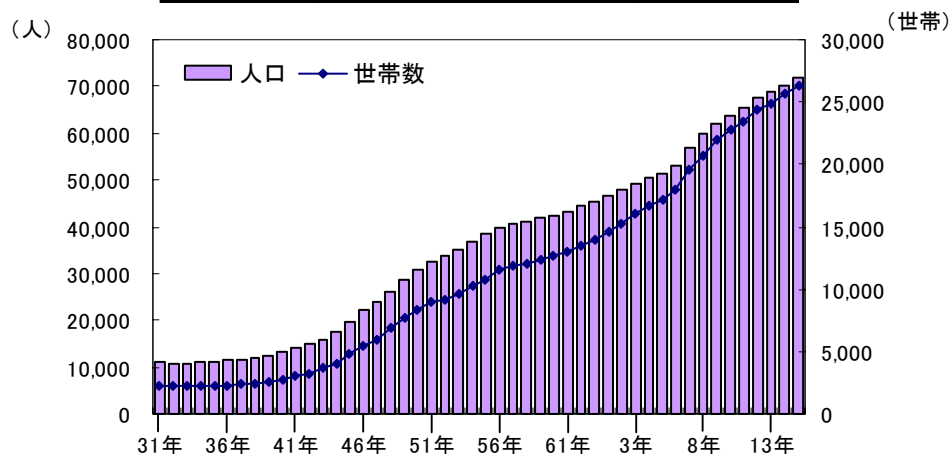
本市の人口は、昭和40・50年代に大規模な住宅開発が進み、他市町村からの転入により急激な増加をみました。平成に入ってから土地区画整理事業など積極的な住宅開発により、人口は着実に増加しています。

また、世帯数は、昭和50年代に一時急激に増加し、これに伴い世帯当たり人員は急激に減少しました。この傾向は、昭和60年代頃に落ち着いたかにみえましたが、平成に入ってから再び世帯数の増加が著しくなり、10年前の平成6年4月1日現在における世帯当たり人員の2.95人と比較して、平成15年4月1日現在の世帯当たり人員は2.72人と確実に核家族化が進展しています。(第4次日進市総合計画より抜粋し、一部加筆)

人口及び世帯数の推移

(単位:人、世帯)

	人口	世帯数	世帯当たり人員
平成6年	53,228	18,034	2.95
平成7年	56,746	19,501	2.90
平成8年	59,686	20,762	2.87
平成9年	62,223	21,900	2.84
平成10年	63,891	22,757	2.80
平成11年	65,553	23,432	2.79
平成12年	67,521	24,317	2.77
平成13年	68,741	24,911	2.75
平成14年	70,181	25,631	2.73
平成15年	71,722	26,350	2.72

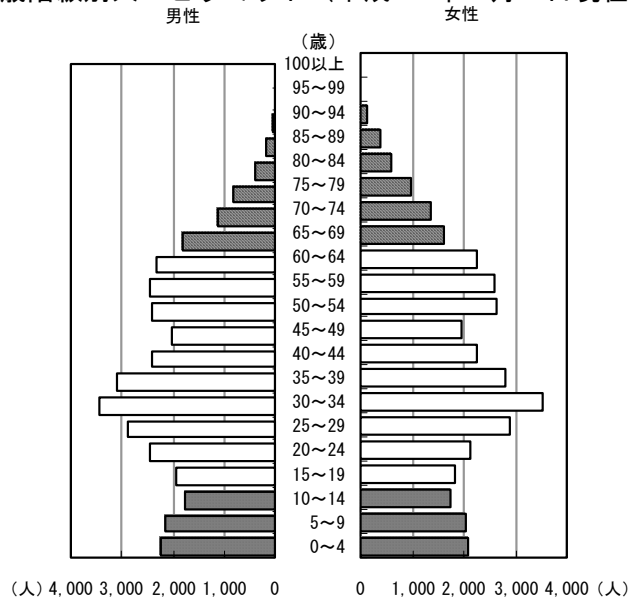


出典：にしんの統計書（平成15年版）

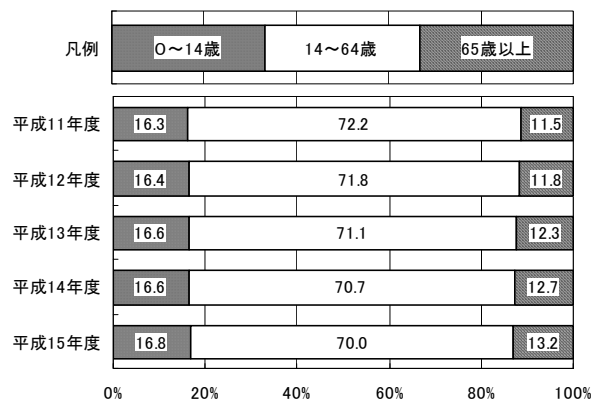
2) 年齢別人口

本市の年齢別人口は、人口増加に伴い各年代とも増加していますが、総人口に占める65歳以上の高齢人口は平成11年度の11.5%と比較して平成15年度は13.2%と1.7ポイント増加しています。また、年少人口については、近年の積極的な土地区画整理事業などの住宅開発により、ニューファミリー世帯と呼ばれるこれから子育てを担う世帯の転入により、年少人口も人口増加とともに増加し、平成11年度の16.3%と比較して平成15年度は16.8%と0.5ポイント増加しています。

5歳階級別人口ピラミッド（平成15年4月1日現在）



年齢3区分別人口（平成15年4月1日現在）



出典：にっしんの統計書（平成15年版）

3) 町別人口

本市の人口を町別にみると、高齢化率が20%を超えている町は、梅森町、蟹甲町、北新町、南ヶ丘、東山となっており、その要因として旧来からの集落による地域や昭和40・50年代の住宅開発による地域の世帯が、加齢に伴い地区全体が高齢化したものと考えられます。逆に高齢化率が10%を下回っている町は、香久山、赤池、岩崎台、栄となっており、その要因として近年の土地区画整理事業などにより、ニューファミリー世帯と呼ばれるこれから子育てを担う若年層の世帯の転入によるものと考えられます。

町別年齢別人口（平成15年4月1日現在）

区域	年齢別人口(人)				構成比(%)			世帯数
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	
日進市	71,722	12,084	50,167	9,471	16.8%	70.0%	13.2%	26,350
赤池町	3,250	405	2,323	522	12.5%	71.4%	16.1%	1,255
浅田町	5,441	895	3,892	654	16.5%	71.5%	12.0%	2,125
梅森町	1,756	209	1,141	406	11.9%	65.0%	23.1%	704
野方町	327	42	220	65	12.8%	67.3%	19.9%	103
蟹甲町	475	57	311	107	12.0%	65.5%	22.5%	165
折戸町	2,148	402	1,471	275	18.7%	68.5%	12.8%	744
藤枝町	1,649	245	1,096	308	14.9%	66.4%	18.7%	566
米野木町	4,245	450	3,004	791	10.6%	70.8%	18.6%	1,491
三本木町	996	91	782	123	9.1%	78.5%	12.4%	487
藤島町	1,635	193	1,138	304	11.8%	69.6%	18.6%	538
本郷町	706	87	487	132	12.3%	69.0%	18.7%	238
岩崎町	9,242	1,227	6,388	1,627	13.3%	69.1%	17.6%	3,495
岩藤町	1,183	163	812	208	13.8%	68.6%	17.6%	404
北新町	1,036	115	709	212	11.1%	68.4%	20.5%	434
南ヶ丘	1,807	223	1,161	423	12.3%	64.3%	23.4%	664
五色園	3,940	478	2,803	659	12.1%	71.2%	16.7%	1,334
梅森台	2,772	400	2,071	301	14.4%	74.7%	10.9%	1,061
東山	3,930	470	2,649	811	12.0%	67.4%	20.6%	1,380
香久山	6,767	1,787	4,601	379	26.4%	68.0%	5.6%	2,285
赤池	2,623	448	1,998	177	17.1%	76.2%	6.7%	1,185
岩崎台	4,576	1,011	3,300	265	22.1%	72.1%	5.8%	1,726
栄	7,337	2,097	5,047	193	28.6%	68.8%	2.6%	2,594
藤塚	3,881	589	2,763	529	15.2%	71.2%	13.6%	1,372

出典：にっしんの統計書（平成15年版）

(2) 産業構造

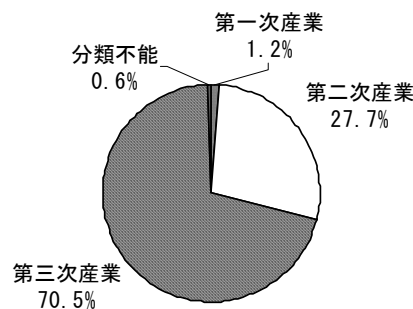
本市の人口を産業分類別にみると、平成13年12月31日現在で第三次産業が24,498人で総数に対して70.5%となっており、次いで第二次産業が9,631人で27.7%、第一次産業が415人で1.2%、分類不能が222人で0.6%となっています。

また、産業大分類別に本市の産業構造をみると、農業については、都市化の進行により、優良農地の確保が困難であるとともに、農家の高齢化・兼業化、さらには非農家への相続による耕作放棄等の問題があり、効率的な農業を推進していくための支援策が求められています。

本市の工業事業所については、より一層の市内雇用の促進と財政基盤の強化をめざした工業振興策を展開していくとともに、中小企業の生産性や競争力を高めていく必要があります。

本市の商業については、名古屋市への購買の流出が顕著であり、市内の商店街の多くは規模も小さく来街者や店舗数はコンビニエンスストアを除き減少傾向にあります。また、大規模小売店の進出による地元商店街への影響も大きいことから、ハード・ソフト両面からきめの細かい地元商業の振興を図っていく必要があります。(第4次日進市総合計画より抜粋)

産業分類別就業人口（平成13年12月31日現在）



出典：にっしんの統計書（平成15年版）

農家数・農家人口及び経営耕地規模

(単位：農家数=戸、人口=人、面積=a)

総農家数	専業農家	兼業農家	兼業農家		農家人口	農業就業人口	経営耕地面積			
			第1種兼業	第2種兼業			田	畑	樹園地	
898	48	850	33	817	3,971	790	36,915	2,615	6,963	2,137

出典：にっしんの統計書（平成15年版）

製造業の町別事業所数・従業者数及び製造品出荷額

(平成13年12月31日現在)

単位：金額 万円

町名	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
総数	133	3,635	10,036,743
赤池町	8	80	86,652
浅田町	40	1,576	3,932,248
梅森町	1	x	x ^{*1}
梅森台	1	x	x
蟹甲町	1	x	x
折戸町	6	64	86,510
東山	2	x	x
藤枝町	4	165	220,194
米野木町	10	505	2,384,099
三本木町	3	124	217,318
藤島町	6	134	273,092
本郷町	5	31	29,485
岩崎町	22	475	1,951,970
竹の山	5	77	142,016
岩藤町	9	199	308,382
北新町	2	x	x
五色園	3	25	64,608
藤塚	5	60	94,114

出典：にっしんの統計書（平成15年版）

卸売業・小売業の産業分類別商店数・従業者数及び販売額

(単位：金額万円)

産業分類	商店数	従業者数	年間販売額
総数	497	4,969	14,336,117
卸売業	112	1,514	7,882,069
小売業	385	3,455	6,454,048

出典：にっしんの統計書（平成15年版）

*1 「X」とは秘匿数値であり、秘匿すべき箇所が1か所及び事業所数が1である場合、秘匿すべき数字と類似した分類の数字を「X」で示しています。